

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	和歌七首 : 文苑
Author(s)	吉田, 豊; 下村, 光
Citation	龍南會雜誌, 14 : 38 - 39
Issue date	1893-02-27
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/4023">http://hdl.handle.net/2298/4023</a>
Right	

梧園先生日和氣譜

都門山廓歲新初、瑞氣今朝一樣舒、傾盡三杯椒、栢酒、酖顏先作奉親書、

除夕

同

同

又曰奇趣

拂塵聲裡夕陽天、喧語猶聞市店邊、吾儕無家欲何掃、胸襟一洗入新年、

瓶中水仙

同

水月仲九

一種芬芳無俗塵、冰肌仙骨見天真、桃前梅後占春者、自是水晶宮裏身、

又

同

黑板勝美

桃前梅後獨知春、楚々寒香自絕塵、應是水晶宮裡客、仙風道骨見天真、

景季簾梅圖

同

隈本繁吉

被髮如雲美少年、簾中插得百花仙、曄而有角君休咎、芳志長傳一谷邊、

秋夜書感

川本良樹

淒涼伴短檠、半夜衆虫鳴、如訴將如泣、聞爲種々聲、

寒夜偶成

補充一綴

澤村晴夫

燈明四座酒盈缸、一片壯心猶未降、慷慨悲歌提劍舞、朔風吹雪入寒窓、

紀元節

硯友會員

吉田

豐

年のはにのどけきものとかし原の御代をし祝ふけふの心が

霞立つ春日のどかにかし原の宮に御代をはしろしめしけむ

同

同

下村

光

万代もうこうぬ國のみはしらを立てましゝ日を祝ふりふかな

曉梅

同

同

はるさめのはきてしつけき曉に糸やのひまもるよどの梅か香  
有明の月の光もかすかにてをほろににはふ軒の梅か香

蒙古襲來

同

吉田

豊

いさつしまさふりし仇もなにくせむ筑紫の海のもくつとそなる

同

同

下村

光

神風にしつみし仇の澤なまは千ひろのうみもあせやしにむ

## 雑報

### ○春色動

年改て煙暗澹雨蒙茸、吾人は寒齋春色の沈々として來る遲きを歎じたりき、然れども太昊已に規を執り歌君連りに律を吹く、北帝如何に貪婪剛愎なると雖是に至てそれ避易の情なからんや、東風細かにして流漂々、蘇岳は半之殘雪の冠を脱して、龍山全く陰雲の封を排り、梅芳方に薰して淡々たる輕煙に染み、柳眼漸く新にして雍々たる靄色を帶ふ、綿蠻たる黃鳥は彼の丘に啼き、躍如たる胡蝶亦た將さに此野を舞はんとす、春色是に於てか動きぬ、試みに吟歩を郊外に轉せんか、煦々たる風光汝が眼を照らさん、欣々たる萬象汝が心に映せん、鬱腦散じ